

## 会長就任の御挨拶

栗 本 雅 司

榎林原生物化学研究所・藤崎研究所

このたび岡山実験動物研究会の第三代会長を務めさせていただく事になりました。

初代が築き、二代目が発展させ、三代目が身上を食い潰して唐草模様という話があります。そうはなりたく有りません。三段跳びでは助走、そしてホップ・ステップ・ジャンプとなります。

初代猪会長は会を創成されご苦労されましたが、十分な「助走」をなされました。

第二代田坂会長は一般の人達にも開かれた研究会を目指して会を指導され、素晴らしい「ホップ」をなされました。

第三代の私は企業の研究所に在る者として、動物実験を行ったり小動物を用いて生理活性物質を研究し、開発し、製造している立場であり専門の学者ではありませんが、岡山実験動物研究会の将来の大きなジャンプのために、地味ではありますが大事な「ステップ」の段階を会員皆様のご協力を得ながら跳んでみたいと考えております。

今、動物愛護団体問題など実験動物あるいは動物実験をとりまく環境は段々と厳しいものになってきております。我々は、動物実験は人類の医療、食品の栄養、機能、安全性などの向上のために必要不可欠であると考えています。一方反対の立場をとる人達は、人類のためなどというのは詭弁であって、ヒトも実験動物も同じ生き物であるからヒトを殺してはいけないと同様、動物もそうしてはならない、とにかく動物実験はするなとなってしまって、意見が噛み合いません。家畜を食べてしまうことには良心が痛まないのでしょうか。小さな動物、可愛い動物、好きな動物についての動物愛護となってしまって、感覚的、感情的動物

愛護の感さえます。

クリントン大総領の大統領科学技術顧問のJ・H・ギボンズ氏は実験動物への思いやりある扱いを訴え「インディアンは食料を求めて動物を殺すときには、いつも、その動物に感謝の祈りをささげる。動物を利用するときにはインディアンのように考えるべきだ」と述べています。

我々もただ人類のため科学のためと言う事を全面に出すだけでなく、動物に感謝の気持ちを抱き、同時に効果的で効率の良い実験を計画し工夫し、やっても意味のないような、単に学会発表のデータを作るためだけの、むやみに苦しめるような動物実験は絶対に避けなければならないし、一方時間がかかっても動物実験を科学的に理解してくれる我々のシンパを一人でも増やしていく努力が大切でしょう。

本研究会は一般の人にも開放されていますが、地味な学会でもありまだ参加者は少数です。研究会案内を大学、研究機関だけでなく、絵心のある会員に研究会案内ポスターを作成して貰ってカラー・コピーして、地域の高等学校などにも送って積極的なPRを考える工夫なども必要かもしれません。

最後に、岡山実験動物研究会の活動を安定して継続するためには財政基盤の確立が必要であり、財政改善にも取り組む必要があります。今年度は岡山県技術振興財団から研究会開催費用の一部について援助して頂ける予定です。

皆様の建設的、具体的、積極的なご提言を期待し、微力ながら研究会の発展に尽力したいと考えております。